

## 第24回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評 コンチェルトB部門

### ●審査員 A

コンチェルトは一人の世界になってしまわないようオーケストラパートの音とともに呼吸しながら感じて演奏することを大切にしてください。オーケストラパートを自分でも実際に弾いて、どのようなハーモニーの中で表現していくべきかを感じてください。自分の音の響かせ方で表現をつけてオーケストラを誘っていける方と自分の中で完結してしまう方と大きく分かれた印象です。一曲を通してのストーリー性をきちんと持って起承転結を表現していくことを心がけ曲の構成をしていくと、説得力のある音楽となるでしょう。拍子をきちんと感じることは言うまでもないことですが、特にコンチェルトの場合、拍感をきちんと体の中に置きつつフレーズを大きくとるようにしてください。オーケストラの音の重なり、響き方が変わってきます。

### ●審査員 B

ピアノを専門的に学びたい若いピアニストへお伝えしたい7か条

1. すべての音は腕から生み出される
2. 常に、腕と指先が繋がっているという感覚を忘れないこと
3. すべての筋肉と腱から緊張を取り除くこと
4. 強弱をつけるときは、鍵盤を押しつけたり、叩きつけるのではなく、重さのバランスをコントロールすること
5. 肘から演奏しないこと
6. ルバートやアツチェレランドする際には、常に形式感と拍子感を意識すること
7. アーティキュレーションと強弱は、拍の位置と音の役割で決まる

### ●審査員 C

アジア大会に進出されたみなさん、おめでとうございます！ショパン自身、ピアノ協奏曲を室内楽版で演奏していたことが分かっていますので、個人的にも室内楽版を高く評価しています。アドバイスとして、是非オーケストラパートの特に和声とフレージングをもっとよく勉強してみてください。また、ショパンが若い頃は、ベルカント唱法で歌う歌手たちが彼の偉大なアイドルでしたので、私たちピアニストもピアノで歌わなければなりません。

### ●審査員 D

様々な年齢の方が参加されていましたが、年齢ではなく、スケールの大きさや音色の違いに基づいて審査しました。弦楽との音量のバランスを良く聞いて、落ち着いて弾かれた方が多くすばらしかったと思います。全ての参加者にとって、貴重な経験になったことと思います。

### ●審査員 E

しっかりしたテクニックもさることながら、アンサンブル能力が重要だと思います。

スコアを読み解き、自分のパートと他楽器とのバランスを常に感じながら曲を構成し、ハーモニーを楽しみ、演奏を進めて行く。これがアンサンブルの魅力だと思います。いろんな音色を効果的に表現することも大切です。

### ●審査員 F

アジア大会に進まれた皆さんおめでとうございます。今回はようやく弦楽四重奏の方々との共演が再開され、楽しみにされていたことと思います。ポーランドから来日されたポーランド・エヴォリューション弦楽四重奏団の皆さんの素敵な演奏との共演は楽しいステージとなった事でしょう。とても皆さんよく弾かれていましたが、自分のソロパートを弾くことに一生懸命になり、呼吸を合わせたり、お互いの音を聴き一緒に音楽を作っていく事がもっと出来ると、聴き手にも伝わるように感じました。また、合わせようと意識するあまり、音楽が停滞してしまう事もありますので、気をつけたいところです。このような機会を通じて皆さんの音楽体験が増え、より充実したものになります事をご祈念しております。